



# 大手前通りの魅力

姫路駅と姫路城を結ぶ姫路中心部の骨格を形成している大手前通り。「日本の道 100 選」にも選定されている姫路のメインストリートを歴史や文化を感じながら歩いてみよう!





# 大手前通りの魅力

姫路駅と姫路城を結ぶ姫路中心部の骨格を形成している大手前通り。「日本の道 100 選」にも選定されている姫路のメインストリートに歴史や文化を感じながら歩いてみよう!

## ① 外濠跡

山陽百貨店前の横断歩道は姫路城の外濠があった場所です。濠は大正 2 年頃に埋め立てられました。大正 12 年には外濠跡に神戸姫路電気鉄道(現山陽電鉄)の線路が敷かれ、残念ながら外濠跡の痕跡は何も残っていません。

## ② 三木美術館

三木茂克氏のコレクションをベースに 2008 年に開館。日本の近代陶磁器・絵画を中心に、約 1000 点の作品を所蔵しています。開館時間: 10:00~18:00(入館 17:30) 火曜休

## ③ 中濠跡

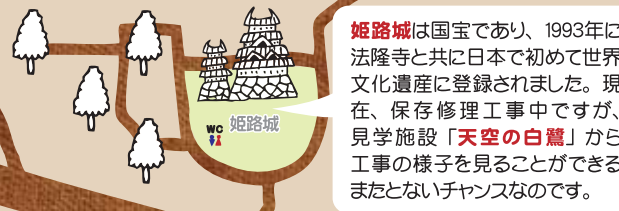
姫路城の中濠は大正元年に当時の堀音吉市長によって埋め立てられました。昭和 7 年には自動車の普及への対応のために城南側の中濠をすべて埋め立て新国道が建設されたのです。

## ④ 納屋工房

窓から姫路城を眺めることができる「一等地」にあるコミュニティスペース。2008 年 4 月に開設したカフェ的な空間で、講座・会議・ワークショップ・一日カフェ・音楽イベント・ギャラリーなどに使われています。地元フリーペーパーや地元産品も扱っており、それらを通じて人のつながりと広がりを実現しているのです。この「場」の運営がきっかけで、主幹の長谷川香里さんは姫路駅周辺の各種まちづくり活動にも参加するようになり「これまでの実績を活かせれば」と語っています。

## ⑤ ヤマトヤシキ

ヤマトヤシキは姫路で唯一の巨匠村野藤吾さん設計の建築です。現在の建物は昭和 25 年の南東部分の竣工から 3 回の増築工事を経て昭和 54 年に完成、そのすべてを村野藤吾さんが設計・指導されています。外壁は当初のタイル貼りに剥落防止用のアルミ外装材をかぶせていますが、塔屋壁面のデザインと階段の手すりは建設時のままだそうです。外装材に取り付けられている「かご」は、ヤマトヤシキの米田会長の希望でサギソウ(姫路市の市花)がモチーフにされています。



姫路城は国宝であり、1993年に法隆寺と共に日本で初めて世界文化遺産に登録されました。現在、保存修理工事中ですが、見学施設「天空の白鷺」から工事の様子を見ることができるといえないチャンスなのです。

大手前通りと姫路城周辺は、路上喫煙禁止区域です。

美しいマナーで美しい城下町を散歩。喫煙コーナーで喫煙を。



## ⑥ 大手前通りストリートギャラリー街・発信

2010 年 4 月に大手前通りまちづくり協議会が設置した情報発信拠点。運営に携わっている岩田愛子さんによると、目的はこの街を伝えることと遠方の街を播磨の中心地であるこの場所から発信すること。コンセプトは「街は人なり、人は街なり」。版画と写真の展示と地域冊子「街・発信」「播磨の食みんなど食べるのいいなあ」の発行が主な活動。それらを通じた人との交流を深めることを大切にしているとのこと。メインストリートである大手前通りで行き交う人を「ようこそ!」と出迎える場所でありたいというお考えでした。

昭和 59 年の区画整理により消えてしまった町名もあるのですが、現在も由緒ある町名が残っています。大手前通り周辺の町名の由来をたどってみました。

- 本町** 姫路城の大手に当たりここから最初の町屋敷がつくられたことから本町(物事のはじめで最も大切な部分の意)。
- 綿町** 江戸時代初期には小屋屋町と呼ばれていましたが、綿問屋が増えてきたため綿町と呼ばれるようになりました。
- 二階町/西二階町** 平屋が多かった時代に二階建ての商家が並び、物珍しさから二階町と呼ばれました。
- 呉服町** 大名高家のための反物や金銀融通をおこなう呉服所があったことが由来。
- 紺屋町** 漆塗り細工の職人がいた塗師町に染物屋(紺屋)ができて、元禄の頃から紺屋町と呼ばれていました。
- 亀井町** 百姓一揆や水害など苦難の時代であった寛延年間に、長寿吉兆の生き物「亀」のいる井戸が見つかり亀井町に改名。
- 白銀町** 白銀という吹銀所(銀の精錬所)があったことが由来という説と、銀子・白銀と呼ばれた贈答用の小判を扱っていた銀子屋があったことが由来という説があります。



## ちょっとお勉強。

### 大手前通りの歴史

第 2 次世界大戦の空襲により焦土と化した姫路の中心地は、石見元秀市長が推進した「復興都市計画事業」により復活を遂げます。その事業の一つが昭和 24 年から始まった 50m 観光道路の建設です。写真上は建設途中のものであり、二階町あたりから北側が拡幅され、南には民家が残っています。拡幅工事は昭和 29 年に完成、昭和 30 年 2 月 20 日に開通式が行われました(写真下)。道路の名前は市民公募で「大手前通り」に決定し、開通式で発表されました。



写真提供: 高橋秀吉コレクション(兵庫県立歴史博物館蔵)

### 新しい大手前通り - 姫路駅周辺整備事業 -

姫路駅周辺整備事業により、姫路駅前が大きく変貌しようとしています。姫路市の都市づくりの基本理念である 3 つの共生(人と人の共生、自然との共生、歴史文化との共生)が具体的な姿となって表現される場所として、人々が憩いつづる交流し、水と緑があふれ、姫路城の外濠などの歴史資源を現在に継承する空間が創出されます。その中で大手前通りも今以上にシンボリックで人に優しい空間に変わり、展望デッキからは額縁の中の絵のように大手前通りと姫路城を眺めることができるのです。



写真提供: 姫路市姫路駅周辺整備室

参考文献: 姫路ぶらぶらガイドブック/姫路ええとこマップ(姫路円卓会議発行 2009.9) 「姫路の町名」播磨地名研究会編著(神戸新聞総合出版センター発行 2005.10)